大崎遺跡

所 在 地:北設楽郡設楽町

代:縄文時代、弥生時代、鎌倉時代等

主な出土品:縄文土器、弥生土器等

注目ポイント 居住地から耕作地へ、山間部の土地利用の変遷がわかる遺跡

大崎遺跡は、北設楽郡設楽町に所在する遺跡で、境川 左岸の傾斜地に位置しています。

設楽ダムの建設工事に伴って2021・2022 (令和3・4) 年 度に発掘調査を行いました。2年にわたる調査で、調査区 のほぼ全域に鎌倉時代の水田関連遺構が展開しているこ とがわかりました。また水田遺構の下面からは、縄文時代 ~弥生時代にかけての竪穴建物群が見つかっています。

まず水田遺構をみていきましょう。遺構は水を引くため の水路、区画を形成する畦畔、畦畔内の作土で構成され ていました。水田の一区画は一辺が3~4m四方という小 8-1 大崎遺跡全景 南西より (2022 (令和4) 年)



規模で、傾斜地が多い山間部での耕作に適した形でした。また、この鎌倉時代の水田に重複して、区画が異 なる水田跡も一部で確認されているため、古代や近世にも水田があったと考えられます。

次に縄文時代~弥生時代の遺構をみていきましょう。遺構は主に遺跡の中央と南端に広がっていました。 遺構の時期は一番古いもので縄文時代早期、一番新しいものは弥生時代中期になります。なかでも、縄文時 代中期中葉および中期後半と縄文時代後期末~晩期の遺構・遺物が最も充実しており、土器の捨て場も形 成されています。特に縄文時代後期末~晩期では埋葬遺構を確認しました。

このように大崎遺跡は縄文時代や弥生時代には集落として、鎌倉時代には耕作地として利用されているこ とがわかり、山間部の土地利用の変遷の一例として貴重な遺跡と言えます。(愛知県埋蔵文化財センター





8-2 水田関連遺構 (2022 (令和4) 年度調査)

8-3 竪穴建物跡群 北東より (2021 (令和3) 年度調査)

愛知県埋蔵文化財センター 2022 『令和3年度設楽ダム関連発掘調査成果会 設楽発見伝8 配布資料』 愛知県埋蔵文化財センター 2022 「設楽町設楽ダム事業に伴う発掘調査2022」 『あいちの考古学2022 資料集』

8-1~3 愛知県埋蔵文化財センター

あいち朝日遺跡ミュージアム

企画展

「あいちの発掘調査 2022」

編集・発行

あいち朝日遺跡ミュージアム 2023 (令和5)年1月21日











あいち朝日遺跡ミュージアム

はじめに

愛知県内では、毎年多くの遺跡で県や市町村等による発掘調査が行われており、貴重な発見が相次いでい ます。

今回の企画展では、朝日遺跡 (清須市) をはじめ、岡島遺跡 (西尾市) 、下田南遺跡 (岩倉市) 、石丸遺跡 (大府市)、 大崎遺跡(設楽町)など、県内各地で行われた最新の発掘調査の出土品を展示するとともに、 「尾張と東三河の首長墓 | をテーマとして、国指定史跡断夫山古墳 (名古屋市熱田区) と国指定史跡馬越長 火塚古墳群(豊橋市)の出土品を公開します。

展示は、朝日遺跡を始めとして、県内各地の発掘調査を実施し、大きな成果を挙げてきた、公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター (弥富市) の協力を得て、考古学の視点から県内 の地域と歴史を概観できる構成となっています。

目次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
岡島遺跡(西尾市)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
史跡断夫山古墳(名古屋市熱田区)・・・・・・
史跡馬越長火塚古墳群(豊橋市)・・・・・・・・
下田南遺跡(岩倉市)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
石丸遺跡(大府市)······
大崎遺跡(設楽町)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・



- ・本書は2023年1月21日(土)から3月12日(日)まで、あいち朝日遺跡ミュージアムで開催する企画展「あいちの発掘調査2022」の展示パンフレットである。
- ・本書の構成と実際の展示構成は異なる部分がある。
- ·掲載資料のうち、重要文化財には「◎ |を付している。
- ・掲載写真・挿図等のうち、提供者と所蔵者が同一の場合は所蔵者のみ記載した。
- ・調査成果の紹介記事は、各文末に記した調査担当者から提供を受けた原稿を、樋上昇(公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋 蔵文化財センター)が取りまとめた。
- ・本展覧会の開催にあたり、下記の機関・個人の協力を得た。
- 愛知県埋蔵文化財調査センター、岩倉市教育委員会、大府市歴史民俗資料館、株式会社アーキジオ、株式会社アコード、豊橋市教育委員会、 西尾市教育委員会
- 浅岡優、岩原剛、小川敦子、川添和暁、島軒満、社本有弥、城ヶ谷和広、鈴木とよ江、谷野雅一、塚野真帆、早野浩二、平松久和

表紙

- 左上:◎勾玉 馬越長火塚古墳出土/古墳時代後期/豊橋市教育委員会
- 左下:◎棘葉形杏葉 馬越長火塚古墳出土/古墳時代後期/豊橋市教育委員会
- 右上:台付壺 岡島遺跡出土/弥生時代中期/西尾市教育委員会
- 右下:甕 朝日遺跡出土/弥生時代中期/本館

あいち朝日遺跡ミュージアムの西側道路部分の発掘調査で出土。この甕が出土した遺構は国指定史跡貝殻山貝塚を中心とする 弥生時代中期中葉(BC2世紀頃)の居住域を囲む内側の環濠とみられ、その埋没時期を示す重要な資料である。

岡島遺跡

所 在 地:西尾市江原町西柄ほか

代:弥生時代中期~古墳時代初頭

遺跡種別:集落跡

主な出土品:弥生土器、石器、銅鐸形土製品

注目ポイント 弥生時代の三河地方を代表する遺跡 今回調査では古墳時代の墳丘墓も確認

岡島遺跡は国道23号線岡崎バイパス西尾東インターの 北東部にあたり、矢作川が作り出した広大な沖積平野の うち矢作古川と広田川が形成した自然堤防上に立地して います。

遺跡の発見は1953 (昭和28) 年に三河地震の影響で 河床が隆起して使えなくなっていた排水路の浚渫工事を 行った際に、多くの弥生土器が発見され、当時の西尾市 立三和中学校 (現・東部中学校) の郷土クラブの先生・生 徒が土器を採集したことに始まります。

その後1977 (昭和52) 年、該当地域の圃場整備に伴い 水路等の発掘調査が行われ、その後も県道衣浦岡崎線、 国道23号線バイパス、病院施設、流通団地造成のため、 現在までに10回の発掘調査が実施されています。



3-1 2020 (令和2) 年度発掘調査全景写真 (東より)

ここで紹介するのは最新の第10次調査の成果です。 2020 (令和2) 年10月から老人保健施設建設に先立っ て行われました。

今回調査での注目点は、一辺約17mを測る古墳時代 初頭の墳丘墓が確認されたことです。墳丘は削平され 主体部は確認できませんでしたが、墳丘墓に伴う遺物 は東溝から壺と甕が確認されました。

弥生時代の遺構は第9次調査で確認された後期の 環濠の延長部分とその環濠の内側をめぐる溝、そのほ か竪穴建物跡が確認済みのものだけでも30棟以上見



3-2 今回調査で確認された墳丘墓

つかっています。ここからは火処である地床炉に炉石 を据え置くものが多く確認されました。

遺跡の全体像については、推定範囲12万㎡余、過 去の調査などから旧河道に挟まれた微高地上に居住 域、墓域が形成されていることが明らかにされていま す。今回の調査地点は居住域の中心部にあたると考 えられ、多数の竪穴建物、環濠など多くの遺構、多量 の遺物があり、これまでの調査成果と合わせ、矢作川 下流域の大集落の姿が次第に明らかになってきてい ます。 (西尾市教育委員会 鈴木とよ江)



3-3 弥生時代後期区画溝確認状況

参考文献

加藤安信 2003 「岡島遺跡」「愛知県史」資料編 考古2 弥生 愛知県 黒澤浩 2019 「岡島遺跡」『新編西尾市史』資料編 [考古 西尾市

3-1~3 西尾市教育委員会

東三河の首長墓

史跡 断美山古墳

所 在 地:名古屋市熱田区旗屋 時 代:古墳時代後期

遺跡種別:古墳

主な出土品:円筒埴輪、形象埴輪

注目ポイント "あいち"の古代史、"あつた"の伝説を解き明かす第一歩

史跡断夫山古墳は全長150m、県下最大の前方後円墳です。海に突き出したような岬状の地形の突端に築かれ、往時は眺望にもすぐれていたことでしょう。熱田神宮からも近く、被葬者を宮簀媛とする伝説がある一方、高井りのまたにきずとする学説もあります。これまで正式な発掘調査が行われたことはありませんが、採集された埴輪や須恵器から古墳時代後期前半、6世紀初め頃に築かれたと推測されています。

愛知県と名古屋市は共同で史跡整備の方向性を検討する目的で古墳の調査事業を進めることになりました。まずは古墳の正確な形や大きさ、詳細な時期を明らかにするため、2019 (令和元) 年度に試掘調査、2020・2021 (令和2・3) 年度には愛知県埋蔵文化財センターがそれぞれ90㎡と100㎡の発掘調査を行いました。

2020 (令和2) 年度は指定範囲外の前方部東側 (20区) を調査したところ、古墳の周りの濠の一部を確認しました。2021 (令和3) 年度は指定範囲外の後円部北側 (21B区)、指定範囲内外の北西側 (21A区) を調査しました。それぞれ、古墳の周りの濠の一部を確認しましたが、古墳の周りの濠が一重か二重か、確認した濠の一部が内側の濠か外側の濠か、今後、慎重に判断する必要があります。

古墳の周りの濠からは破片になった状態の埴輪が出土しています。埴輪は古墳に沿って並べられた円筒 埴輪が多く、何かを模した形象埴輪もあります。陶器と同じように窯で高温で焼かれたため、表面が灰色に なっているものが多いのも特徴です。 (愛知県埋蔵文化財センター 早野浩二)



4-1 断夫山古墳全景



4-3 前方部北西側 (21A区)



4-2 前方部東側 (20区)



4-4 後円部北側 (21B区)

参考文献

伊藤文四郎 1928 「断夫山古墳」 「愛知県史蹟名勝天然記念物調査報告書」 第6 愛知県服部哲也 2005 「断夫山古墳」 「愛知県史」 資料編3 考古3 古墳 愛知県藤井康隆 2008 「断夫山古墳」 「新修名古屋市史」 資料編 考古1 名古屋市

史跡 馬越長火塚古墳群

所 在 地:豊橋市石巻本町字紺屋谷ほか 時 代:古墳時代後期~終末期

遺跡種別:古墳

主な出土品:金銅装馬具、玉類、須恵器など

注目ポイント 穂国造の三代にわたる古墳群、豪華な金銅装馬具は、ヤマト王権との深い関係の証し

豊橋市北部の石巻地区は県内屈指の古墳集中地帯で、 500基以上の古墳があります。馬越長火塚古墳群はその中心 的な存在です。

馬越長火塚古墳群は、馬越長火塚古墳(前方後円墳:全長70m)、大塚南古墳(円墳:直径19m)、白明塚南古墳(円墳:直径23m)の3基の古墳からなります。馬越長火塚古墳は、東海地方では数少ない後期末葉(6世紀末葉)に築造された前方後円墳です。奈良県見瀬(五条野)丸山古墳や岡山県こうもり塚古墳、長崎県双六古墳などと同じ「見瀬丸山型前方後円墳」で、西日本の首長たちと関係を持ち、欽明朝のもとで活躍した地方豪族の墓と考えられます。また、出土品の棘葉形古葉をはじめとする金銅装馬具は、当時の最高峰の金工技術でつくられた優品です。トンボ玉を含む玉類などともに国の重要文化財に指定されています。



5-2 大塚南古墳の横穴式石室 (古墳時代終末期)



5-3 口明塚南古墳の横穴式石室(古墳時代終末期)



◎5-1 馬越長火塚古墳出土棘葉形杏葉 (古墳時代/豊橋市蔵)

大塚南古墳と口明塚南古墳は円墳で、前者は7世紀 初頭、後者は7世紀前葉に築造されました。いずれも金 銅装馬具が出土しており、長火塚古墳の後継者たちの墓 と考えられます。

2021・22 (令和3・4) 年に、馬越長火塚古墳群の保存整備を目的とする追加の確認調査を実施しました。長火塚古墳では前方部南側の調査を行い、独特な施工方法の葺石が検出されています。また大塚南古墳・口明塚南古墳では主体部の調査を行いました。全長10mほどの大型横穴式石室が検出されましたが、著しく破壊され、石材は抜き取られていました。いずれも付近で産出される白色の石灰岩が使われており、複室構造となるなど、長火塚古墳の石室の特徴を受け継ぐものです。

馬越長火塚古墳群は、3世代にわたる東三河地方の有力者の墓です。当時は律令期の前段階として、豊川流域に「穂国」が存在した時代で、馬越長火塚古墳群は穂国造の、初代から3代続く歴代の墓と考えられます。

(豊橋市文化財センター 岩原剛)

参考文献

豊橋市教育委員会 2012 『馬越長火塚古墳群』

岩原 剛 2017 「考古学から穂国造を考える」「三河国、ここにはじまる!』 雄山閣

しもだみなみ

下田南遺跡

所 在 地:岩倉市川井町

代: 古墳時代から室町時代

さい は が・8 回る時 海市県 呼び上端等

注目ポイント 超大型竪穴建物が語る古代国家形成期における地方集落の変遷

下田南遺跡は、岩倉市の南西端に所在する遺跡で、五条川によって形成された標高約7mの自然堤防上に位置します。周辺は、水田と畑地からなる広大な耕作地帯で、住宅地や工場などが点在しています。(6-1)

下田南遺跡を含む周辺一帯が、愛知県 企業庁と岩倉市が共同で取組んでいる開 発事業の対象区域になり、2019(令和 元)年8月から2021(令和3)年3月にかけて 遺跡の記録保存を目的とした発掘調査を行いました。



6-1 遺跡全景 東より 遺跡範囲 (白枠)、調査範囲 (赤枠)

調査の結果、数多くの竪穴建物・掘立柱建物をはじめ、道路状遺構、溝状遺構などが確認でき、遺跡が古墳 時代から中世にかけての遺跡で、全盛期は飛鳥時代後半から奈良時代前半であることが判明しました。

当初は、事前の試掘・確認調査で得られた結果から、古代の集落遺跡と判断していました。しかし、集荷場と思われる広場を囲むように「L」字状に整然と配置された高床式の倉庫群と倉庫の管理棟と思われる大型の四面廂付建物などが確認できたことから、官衙要素が含まれる複合遺跡であることが判明しました。(6-2)

特筆すべき遺構としては、1棟の超大型竪穴建物が挙げられます。超大型竪穴建物は、遺跡の全盛期に造られた建物で、竪穴の長辺約12m(東西)、短辺約11m(南北)を有し、調査で確認されている他の竪穴建物の一辺が5~8mと比較してもその大きさは別格で、県内でも最大級の規模を誇ります。遺跡周辺の景観から、往時は地域のランドマーク的な建物であったと考えられます。(6-3)

調査では、古墳時代の土師器をはじめ、古代の 東京なき、かいゆうとうき 須恵器、灰釉陶器、中世の山茶碗、焼締陶器、施釉 とうきなどが出土しています。そして、官衙に関連す る遺物では、官人が装着していた腰帯の石製飾り である巡方、円面硯、須恵器の転用硯、暗文土師器 などが出土しています。



6-2 高床式倉庫群 調査区1b区



6-3 超大型竪穴建物 (赤枠) と一般的な竪穴建物 (白枠) 調査区1d区

下田南遺跡は、岩倉市を含む尾張地域の古代史のみならず、初期の律令制度下における地方社会を解明 するうえで重要な遺跡になると考えられます。 (岩倉市教育委員会 平松久和)

参考文献

岩倉市教育委員会・株式会社アーキジオ 2023 「下田南遺跡発掘調査報告書 — 川井野寄地区工業用地開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 — 」注)この報告書は令和5年3月に刊行します。

6-1~3 岩倉市教育委員会

石丸遺跡

所 在 地:大府市横根町石丸・北崎町城畑

時 代:鎌倉〜室町・戦国時代

遺 跡 種 別:集落跡

主な出土品:土師器、山茶碗、中世陶磁器

よこねごう

注目ポイント 知多半島では希少な集落遺跡、文献史料に記された中世集落「横根郷」を発見

石丸遺跡は、尾張・三河の国境とされた境川右岸の台地上、旧衣ヶ浦湾(知多湾北部)を望む標高約10~13mに立地する中世集落遺跡です。推定範囲は台地縁辺の南北約300m、東西約150mで、遺跡の南方約500mには、古代の土器製塩遺跡である惣作遺跡が位置しています。

石丸遺跡は1957 (昭和32) 年に発見され、長らく中世の遺物散布地として知られてきましたが、2021 (令和3) 年度の宅地造成工事に伴う発掘調査において、大規模な区画溝や堀を伴う中世集落遺跡であることが明らかになりました。知多半島域では、窯業関連遺跡は数多く発見されていますが、集落遺跡の発見は非常に珍しく、当地域の集落の構造や変遷を考える上で貴重な遺跡と考えられます。



7-1 調査区全景 (航空写真:写真上方が北)

発掘調査では、溝で囲まれた屋敷地(室町時代から戦国時代)が4区画見つかり、掘立柱建物跡や柵列、井戸、竪穴状遺構、堀、廃棄土坑(ゴミ穴)、畑の耕作溝などが多数見つかりました。特に建物を構成する柱の穴は800基以上も見つかり、数百年の長きにわたって、この地で活発な活動が行われた様子が伺えます。

出土した遺物には、土師器、山茶碗、中世陶器(古瀬戸・ 常滑焼)を主体に、中国産磁器、瓦質土器、中世瓦、硯、砥 石、鉄滓、木製品などがあり、鎌倉時代から戦国時代にか けての製品が多く見られます。この中には、一般の集落では



7-2 屋敷地を囲む区画溝 (室町時代)

出土しない高級品も多く含まれる他、花押と 呼ばれる特殊な文字が記された陶器も出土し ており、屋敷の主人の身分や階層を知る上 で、貴重な資料と言えます。

石丸遺跡の位置する横根は、中世期の文献 史料に記された尾張国横禰郷 (=横根) の想 定地であり、横根郷の集落の一部が実際に 遺構として発見された貴重な例と言えるで しょう。 (株式会社アコード 島軒満)



7-3 集落最盛期の土器・陶磁器など (室町時代/大府市歴史民俗資料館蔵)

参考文献

大府市 1991 『大府市誌 資料編 考古』 大府市歴史民俗資料館 2022 『石丸遺跡 I』 大府市

7-1~3 大府市歴史民俗資料館